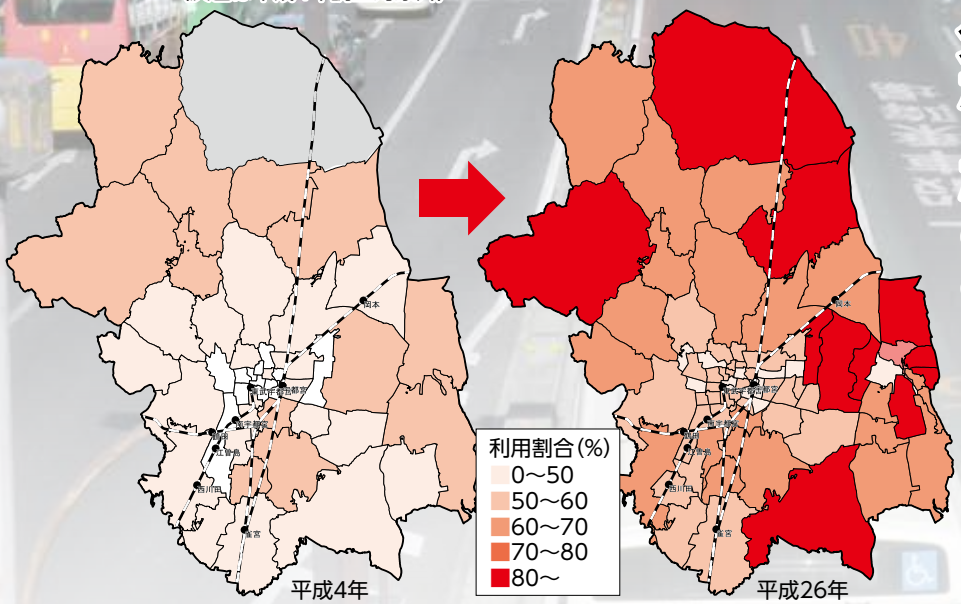
誰もが安心で便利に暮らすことができる魅力あるまちを目指して

県央広域都市圏生活行動実態調査から分かったこと

バスを使って大いちょう博士との待ち合わせ場所にやって来たミヤリー。ぼんやり車窓から街並みを眺めていると、歩いている人、自転車に乗っている人、車に乗っている人、いろいろな手段で移動している人がいることに興味を持ち、大いちょう博士にいろいろな質問をしました。

図1：地域別の自動車の利用割合
（灰色は平成4年調査対象外）



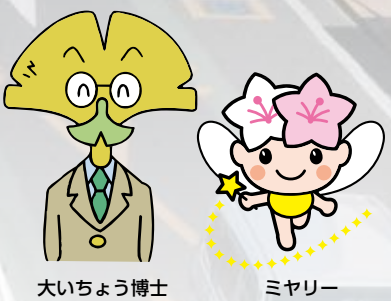
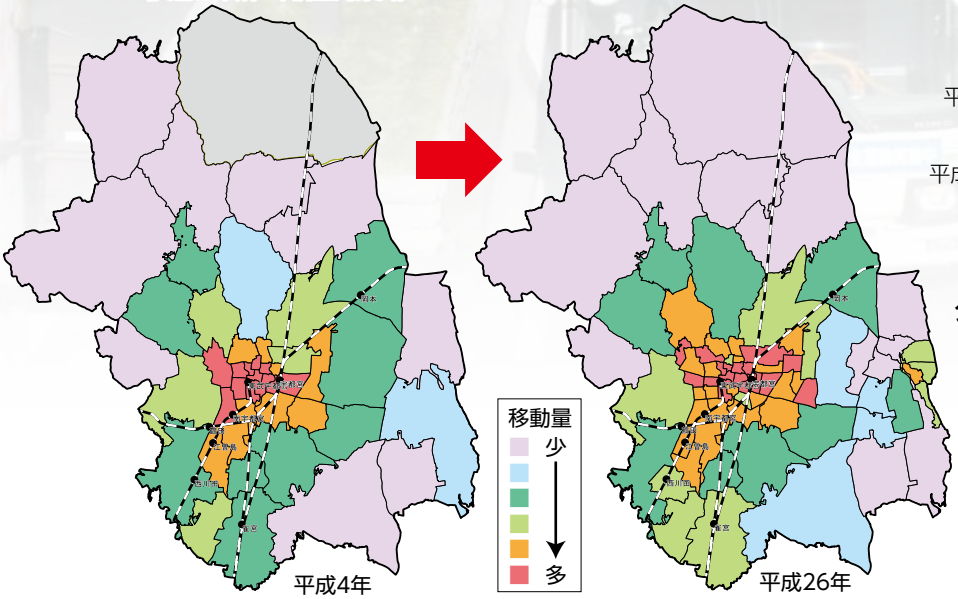
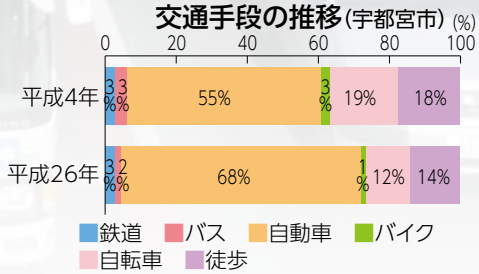


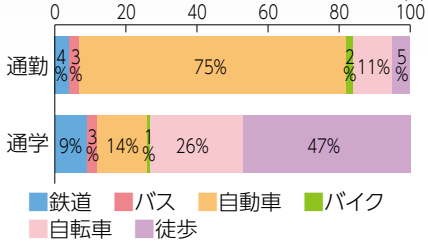
図2：地域別の移動量
（灰色は平成4年調査対象外）



グラフ1：移動に利用した交通手段の推移（宇都宮市）



グラフ2：移動の目的別の交通手段
（平成26年・宇都宮市）



■県央広域都市圏生活行動実態調査とは　▽目的　いつ、どのような人が、どのような目的で、どのような交通手段で、どこからどこへ移動したのかなど、ある特定の1日の活動状況を調べるもの▽調査圏域　宇都宮市、鹿沼市、日光市内の旧今市地域、真岡市、さくら市、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町、高根沢町▽対象　調査圏域に住む約42万世帯から無作為に抽出した約12万世帯▽回収結果　約3万4,000世帯から調査票を回収。

推移する交通手段

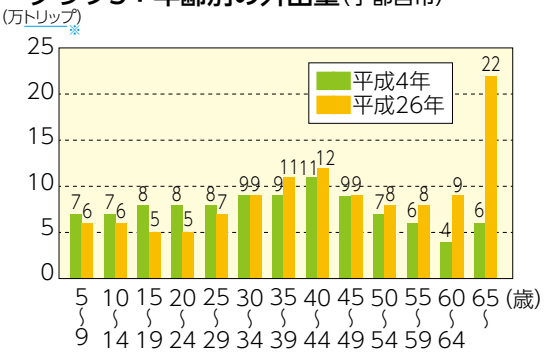
たくさんの人が、移動するときに車を使っているよね。

そうじゃな。平成26年に行った県央広域都市圏生活行動実態調査からも、前回の平成4年の調査と比べて、車での利用割合が高くなっているのが分かるじゃろう（図1とのグラフ1）。

また、地域別で見ると、中心部よりも、特に郊外部で割合が高くなっているんじゃ。

約20年で、こんなに変わるんだね。

グラフ3：年齢別の外出量（宇都宮市）



中心部から広がる移動量

他に、どのようなことが分かったの？

図2からは、学校や会社のある中心部での移動量が多いことが分かるじゃろう。

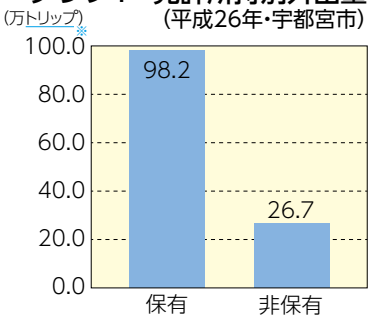
そして、平成4年と比べると、中心部から郊外に移動量が広がっているのも分かるんじゃ。

それなので、移動の交通手段も車が多くなる傾向になるんじゃろうな。

増える高齢者の外出量

外出量自体も増えているの？

グラフ4：免許所持別外出量（平成26年・宇都宮市）



※トリップ数 人がある目的を持って、ある地点からある地点へと移動する単位。

平成4年と比べて、高齢化に伴い高齢者の外出量が特に増加しているんじゃよ（グラフ3）。また、免許を持っていない人は、持っている人の外出量の4分の1という結果もあるんじゃ（グラフ4）。

これからもっと高齢化が進んでいくんだよね。高齢者が免許を返納して車に乗れなくなっても、お買いものなどの外出をずっと続けられるといいな。

そうじゃな。健康寿命を延ばすためにも、まずは楽しく外出じゃからな。

暮らしやすく魅力あるまちづくりに活用します

調査結果は、これからどうするの？

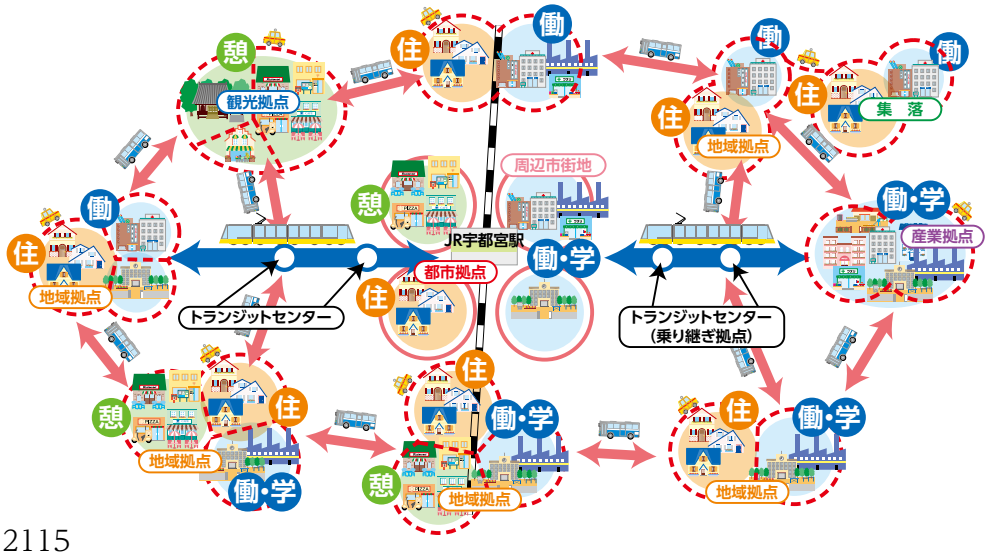
今回の調査で、市民の行動の実態も分かったので、都市計画や交通、防災、環境、福祉など、より住みやすく、暮らしやすいまちにするため活用していくんじゃ。

これから宇都宮がどのようなまちになっていくのか楽しみだね。

問都市計画課☎(632)2642

コラム 100年先も持続可能なまちを目指して ネットワーク型コンパクトシティ

これから本格的な人口減少や、少子・超高齢化時代を迎えようとしています。これらの課題を解決するため、本市では、人やさまざまなまちの機能がそれぞれの地域の拠点に集まり、拠点同士が公共交通などで結ばれた、将来の目指すべきまちの姿であるネットワーク型コンパクトシティの形成を進めています。



問政策審議室☎(632)2115

◎県央広域都市圏生活行動実態調査の調査結果については、市ホームページで閲覧できます。